

岩手県南平坦地帯におけるササニシキ中後期生育の安定化

第4報 苗の種類別移植適期

畠山 均・高橋 政夫*

(岩手県立農業試験場県南分場・*北上農業改良普及所)

Stable Cultivation of Rice "Sasanishiki" after Active-tillering Stage in Flat Area of South-Iwate

4. Right time of transplanting depend on different seedlings

Hitoshi HATAKEYAMA and Masao TAKAHASHI*

(Kannan Branch, Iwate-ken Agricultural Experiment Station・)
*Kitakami Agricultural Extension Service Station

1 はじめに

近年、岩手県南平坦地帯のササニシキは、初期生育が旺盛なもの、分げつ盛期以降凋落的生育となりやすく、収量の頭打ち傾向が指摘されている。

筆者らは、昭和59年から62年にわたり、当地帯における中後期生育安定化のための調査研究及び各種の栽培試験を行ない、その取りまとめの中から、既に多収事例や稚苗、中苗の分げつの特徴等について報告^{1),2)}した。ここではササニシキのこれまで以上の良質安定多収確保のための、苗の種類別移植適期について報告する。

2 試験方法

- (1) 試験年次 昭和59年～62年
- (2) 供試品種 ササニシキ
- (3) 試験場所 県南分場圃場
- (4) 育苗 稚苗：200g/箱播（59年～60年），180g/箱播（61年～62年） 中苗：120g/箱播（59～60年），100g/箱播（61年～62年）以上いずれも加温出芽，ビニールハウス内育苗
丸型樹脂ポット苗：30～40g/箱播（59年～62年）
シルバーポリベタ掛け，ビニールハウス内育苗
- (5) 栽植密度 30.0×15.0cm（22.2株/m²）稚苗4～5本/株，中苗3～4本/株，丸型樹脂ポット苗2～4本/株（1ポット）手植え
- (6) 施肥量（成分kg/a） N：0.4+0.2 P₂O₅：1.2 K₂O 1.0+0.2（追肥は，出穂10～15日前）。珪カル12kg/a 牛厩肥120kg/a
- (7) 供試条件及び供試苗の形質（表1）
- (8) 収量及び玄米品質調査は1.70mmふるいによる。

3 試験結果及び考察

苗の種類別の茎数・穂数の推移を図1，出穂期，収量構成要素等の平均値を表2，収量の年次変動を図2に示した。これをみると，早植えほど有効茎数決定期，最高分げつ期が早くなり，幼穂形成期，出穂期もともに早まるが，有効

表1 供試条件及び供試苗の形質（昭和59年～62年）

苗の種類	播種日 (月・日)	移植日 (月・日)	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	茎葉乾物重 (g/100本)	苗の窒素濃度 (%)	備考
稚苗	4. 8	5. 3	15.0	2.2	1.34	3.61	
	4.16	5.10	13.1	2.2	1.27	3.39	
	4.26	5.20	13.9	2.4	1.27	3.67	
	5.11	5.30	14.5	2.1	1.23	3.76	
中苗	4. 5	5.10	16.1	3.2	2.10	3.99	
	4.15	5.20	14.9	3.3	2.29	3.52	
	4.25	5.30	16.8	3.5	2.44	3.26	
丸型樹脂ポット苗	4.11	5.10	14.5	3.6	3.10	4.49	(59～61)
	4.11	5.20	20.8	4.4	5.52	4.24	
	4.11	5.30	23.6	5.1	8.97	3.78	
	4.21	5.30	18.2	4.5	5.74	3.54	(59～61)

茎数決定期から出穂期までの期間が長く，有効茎歩合はやや低い傾向である。また出穂期は，稚苗5月30日移植区を除けば，当地方の安全出穂期晩限（8月17日，出穂後40日間の積算平均気温840度）までに出穂しており，稚苗，中苗とも5月20日までに移植されたものは出穂期の差も比較的小さい。

収量は丸型樹脂ポット苗>中苗>稚苗の順に多く，葉数増加苗ほど多収である。移植期別にみると，稚苗，中苗では5月10日植え，丸型樹脂ポット苗では5月30日植えが多収となった。玄米の外観品質は，遅植えほど乳白粒が少なく，光沢が良好で（データ省略），検査等級も上位に格付けされた。

移植期別の葉色の推移を表2に示した。稚苗の5月3日移植区では，6月下旬ころからの葉色の低下が目立ち，有効茎歩合が低くなって穂数や粒数が不足し，低収となる年もあり，収量の安定性に欠ける。また5月30日移植区では葉色の低下は少ないが，登熟歩合，収量の年次変動が大きくなる傾向である。一方丸型樹脂ポット苗の5月10日移植区では，6月下旬の葉色の低下が顕著で倒伏も多くなって収量はあまり上がらない。なお，5月10日移植区に7月5日窒素成分0.1kg/aの追肥を組合せることにより，66.6kg/aの多収となる年もあった（昭和60年，データ省略）。また丸型樹脂ポット苗の場合は，遅植えほど葉色の低下も

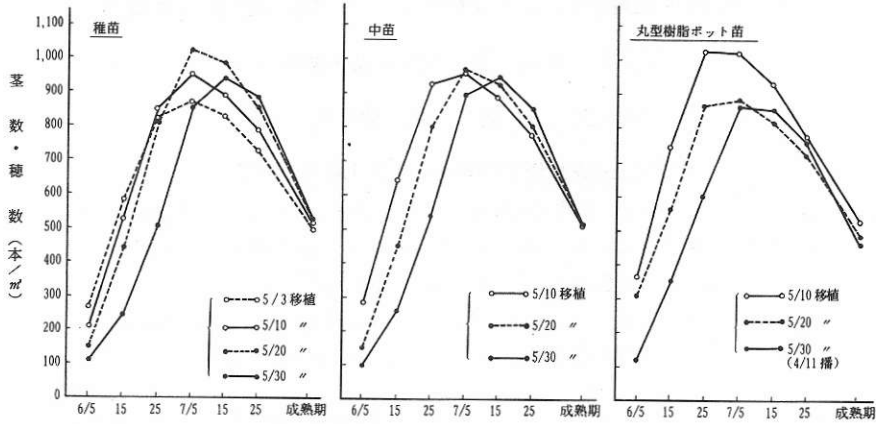


図1 苗の種類別茎数・穂数の推移 (昭和59年～62年までの平均値)

表2 苗の種類別、移植期別出穂期、収量構成要素等の平均値 (昭和59年～62年)

苗の種類	移植期 (月・日)	最高分 げつ期 (月・日)	幼 穂 形成期 (月・日)	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	穂 数 (本/㎡)	㎡当り 粒 数 (×10 ³ 粒)	登 熟 歩 合 (%)	玄 米 千粒重 (g)	検 査 等 級	倒伏(0～5)		葉 色 の 推 移
											平均	最小～ ～最大	
稚 苗	5. 3	7. 6	7.14	8. 7	9.28	498	35.7	79.5	21.2	3.8	2.4	0.5～4.5	6.20頃から退色, 7月上旬退色大 6月下旬から退色 退色少ない
	5.10	7. 7	7.16	8. 8	9.28	508	37.9	79.2	21.0	3.8	2.5	0.5～4.0	
	5.20	7.11	7.20	8.10	9.30	522	36.7	79.6	21.0	4.0	2.4	0.0～3.6	
	5.30	7.16	7.25	8.15	10. 8	525	37.3	76.4	21.1	3.3	2.8	1.5～4.0	
中 苗	5.10	7. 3	7.14	8. 7	9.26	506	37.1	82.6	21.1	3.3	2.8	0.7～4.5	6.20頃から退色 6月下旬から退色はじまる 7月上旬一時退色
	5.20	7.11	7.18	8. 8	9.29	510	35.7	82.4	21.0	3.5	2.6	0.0～4.2	
	5.30	7.14	7.22	8.12	10. 4	507	37.9	79.1	21.1	3.3	2.0	0.0～4.0	
ポット苗	5.10	7. 2	7.11	8. 4	9.18	524	36.6	82.9	20.6	4.7	3.2	2.5～4.0	6.20頃から退色, 7月上旬退色大 6月末頃から退色
	5.20	7. 2	7.13	8. 5	9.25	485	37.1	80.0	21.3	4.0	2.6	0.8～4.5	
	5.30	7.12	7.17	8. 8	10. 1	459	38.2	77.6	21.2	3.8	2.4	0.5～3.4	
	5.30	7. 9	7.18	8. 8	9.28	463	36.9	83.5	21.3	3.7	2.2	1.5～3.0	

注. 1) 最高分げつ期は推定 2) 検査等級は1等上=1, 1等中=2, 1等下=3 3等下=9として表示

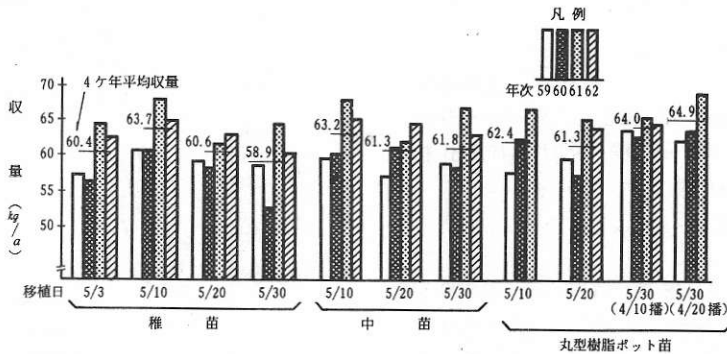


図2 苗の種類別、移植期別収量の年次変動

少なく、良質多収で、その年次変動も比較的小さい。

以上生育経過 (葉色の变化, 茎数の推移等), 収量及びその安定性, 追肥等栽培対応のしやすさなどから, 安定良質多収 (目標65.0kg/a) を得るための苗の種類別移植適期は, 稚苗・中苗では5月10日, 丸型樹脂ポット苗では出穂期の遅れも少なく, 遅植えほど多収の傾向ではあるが, どの移植期でも収量は比較的安定して多収であり, 移植適期の幅は広く, 5月10日から30日までと考えられた。

今回の報告は, 施肥法を一定とした場合の移植適期であり, 今後は苗の種類別, 移植期別の施肥体系の検討と, 栽

培法が食味に与える影響についての検討も必要と思われる。

引用文献

- 1) 畠山 均, 高橋政夫. 1986. 岩手県南平田地帯におけるササニシキ中後期生育の安定化. 第2報 苗質. 作期別の分けつ体系. 東北農業研究 39: 23-24.
- 2) 高橋政夫, 荻原武雄, 畠山 均. 1986. 岩手県南平田地帯におけるササニシキ中後期生育の安定化. 第1報 ササニシキ多収共励会に見る安定多収の方向. 東北農業研究 39: 21-22.